



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

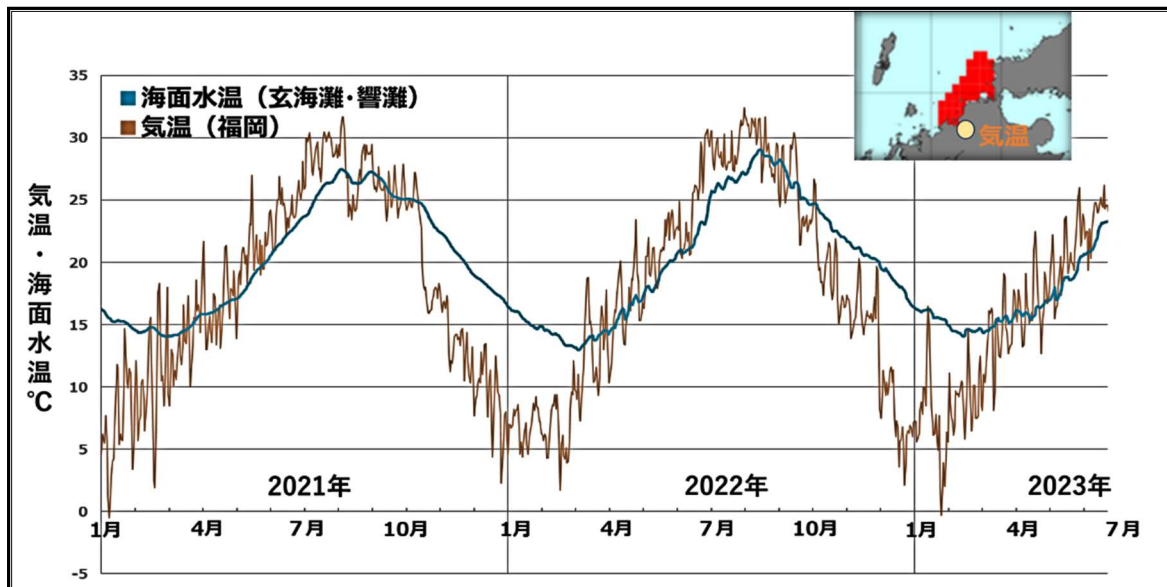
海の温度について教えてください。

7月に入り海のレジャーシーズン到来です。連日、暑い日が続いていますが、海水浴に行くと少し涼しい潮風や、冷たい海の水で暑さを忘れることができます。今回はそんな海の温度について紹介したいと思います。

普段あまり海に行かない人や、住んでいる所から海が遠いと、海の温度なんて自分にはあまり関係ないと思ってしまうかもしれませんが、実は色々なところで関係があります。

近年は大雨による災害が多発していますが、海水温は激しい雨の降りやすさに影響があります。台風は海水温が約 27°C 以上の場所で発達するため、大雨や暴風による災害にも影響しています。また、今年エルニーニョ現象が発生しており、日本の天候にも影響があります。エルニーニョ現象とはペルー沖の海水温が高くなった状態のことで、遠く離れた場所の海水温が日本の天候に影響を与えたりします。さらに、海水温の変動で豊漁（もしくは不漁）となったり、海水温は食生活にも影響を与えています。

海水には、空気に比べて温まりにくく冷めにくいという特徴があります。玄界灘・響灘の海水温と福岡の気温を比べて見てみると、海水温は1年を通して 14°C ～ 28°C で推移しており、気温と比べると温度の変化の幅が小さいことが分かります。また、最も暖かい時期や最も冷たい時期が、気温に比べると1か月程度遅れていることが分かります。このように海水温の変化が小さくゆっくりなのは、温まりにくく冷めにく

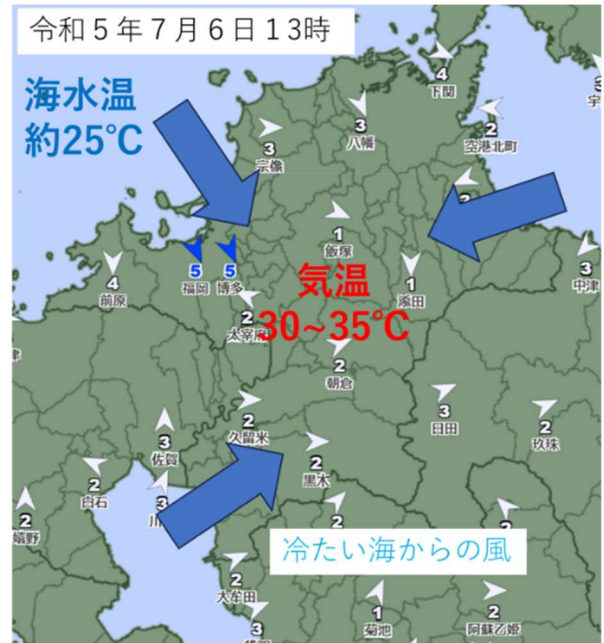


い特徴によるものです。

温まりにくく冷めにくい特徴のために、昼は海は陸より冷たく、夜は海は陸より暖かくなります。風は冷たい所から暖かい所に向かって吹くため、昼間は海から冷たい風が吹き、陸地で気温が上昇するのを抑えてくれます。海から吹く風は、数十km内陸まで入り込むため、福岡県内ならどこでも海からの風によって気温の上昇が抑えられています。

最後に地球温暖化による影響についても紹介します。地球温暖化により増加した熱エネルギーの約90%は、海が取り込んでおり、海水温も長期的に上昇の傾向が見られています。日本近海の海水温は100年あたり1℃以上上昇しており、この上昇率は世界平均の2倍以上となっています。このため、地球温暖化がさらに進めば、日本近海の環境が大きく変化するかもしれません。

今回は海水温と海水温にもたらされる現象について紹介しました。海水温は日々の現象から数百年の現象にも関わっています。今年、潮風を感じた際には、海に思いをさせてみませんか。



ご意見をお待ちしています

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

e-mail : fukuoka_bousaichousa@met.kishou.go.jp

【お知らせ】

- 『防災・お天気フェア 2023』を開催します

日時：令和5年7月29日(土) 10:00~16:00 (入場無料)

場所：福岡管区気象台(福岡市中央区大濠1-2-36)



- 『第9回 海の科学講座』を開催します

日時：令和5年8月6日(日) 13:00~16:00 (参加費無料)

開催方法：オンライン *要事前予約



次回の発行は2023年9月の予定です(8月は休載です)。